

東京2020オリンピック・パラリンピック調査特別委員会記録

平成31年1月22日(火)午後4時06分～午後4時32分(9階908会議室)

○出席委員(11名)

委員長	高木 克尚	副委員長	尾形 武
委員	沢井 和宏	委員	二階堂 武文
委員	鈴木 正実	委員	根本 雅昭
委員	小松 良行	委員	村山 国子
委員	小野 京子	委員	山岸 清
委員	渡辺 敏彦		

○欠席委員(なし)

○議題

- 1 意見交換会について
- 2 その他

午後4時06分 開 議

(高木克尚委員長) ご苦労さまです。ただいまから東京2020オリンピック・パラリンピック調査特別委員会を開会いたします。

議題は、お手元に配付の印刷物のとおりであります。

意見交換会についてを議題といたします。

初めに、皆様にご報告をいたします。1月11日の成蹊高校の始業式に合わせて参加者の募集を開始いたしました。本日皆様にもお配りをしているチラシを成蹊中学校、高校の全生徒に配布をいたし、周知をし、参加希望をとり始めております。今月末を締め切りとして、学校側に取りまとめをお願いしてまいりました。

また、今月15日に大会組織委員会の公認プログラムの特設サイトに当委員会の意見交換会が掲載されました。

次に、先日、正副委員長手元で、意見交換会の進め方や会場となる教室について成蹊高校と打ち合わせを行いました。

打ち合わせの結果について、事務局より説明いたします。

(書記) それでは、事務局よりご説明させていただきます。

まず、今ほど委員長からご説明ありましたとおり、チラシ、皆様のほうにお配りさせていただいて

おりますが、各会派のほかの議員の皆様の方にもぜひお渡しいただければということで会派の皆様分もご準備させていただいておりますので、よろしければ皆様の方にお渡しいただければと思います。

あとあわせまして、こちらのほうに張っておりますが、ポスターサイズ、こちらのほうも数枚作成いたしまして、学校側のほうにもこちら配布しまして、学校に、チラシとはまた別で、この大きさのポスターも掲示していただくような形でお渡しさせていただいておりますので、ご報告させていただきます。

なお、先日、1月の9日に、学校のほうに参りまして、学校の副校長先生と当日の内容等について協議をいたしました。その内容についてご報告させていただきたいと思っております。

まず、副校長先生のほうから一番強くありましたのが、中学生、高校生、今どう見てもオリンピックで盛り上がっている、関心があるとは全く見えないというのがやはり学校で先生方が見ている印象、一番強い印象というお話がございました。それで、なぜかというところを考えたときに、やはり今の子供たち、中学生、高校生というのが、2020年のオリンピック・パラリンピックの開催が決定したときにまだ小学校程度で、余りニュースも見っていないような年ごろで、もうそのときから余りぴんときていないような状況で、なぜ福島でオリンピックの一部競技をやるのかという認識も全くないまま今現在もいるのではないかと、そういう印象を受けているというのが学校側の一番今のところの感想ということで、皆様にもお配りさせていただきました事前記入のシートも持ちながら学校側とも協議させていただいたのですが、やはり現状、子供たちに自由に意見を言っていよと言っても、なかなかそういう状況で意見が出てこないのではないかなというのが先生側もかなり危惧しているというようなこととございました。そこで、やはり学校側とすると、なぜ福島でソフトボール、野球が開催されるのかというところの意義、震災があつて、それで復興五輪としてソフトボールと野球を福島でやるのだよといったような、今現在のオリンピック・パラリンピックについてのそういったことをちょっと子供たちに教えてほしいと。その上で子供たちに、どうだろうねというふうに聞けば、ある程度意見は出てくるのかなというところで、やはりオリンピック・パラリンピックに関心を持つためにも、震災から復興五輪として福島で開催されることが決まったのだということをお子たちに伝えてほしいというお話が学校側からはございました。でないと、やはりちょっと意見交換してもなかなか今の子供たちは意見を出すのが難しいのかなというのが一番でございました。

そこでなのですが、学校側としては1月中、今月中に参加者を取りまとめる予定ということで、それ以降、3月23日の本番までの間に、決まった参加者に事前に学習会みたいなものを作ってほしいというような依頼がございました。事務局としても日程を学校側と相談しまして、3月上旬ぐらいにできれば1度事務局と、それから市の4階のオリンピック推進室のほうで高校のほうに出向きまして、オリンピックとはこういうものだというのであったり、あとは議会として、委員会として、こういうようなことで特別委員会というのは臨んでいるというような内容、それから事前記入シート、こう

いうことで記入してもらいたいといった内容等を事前に学生さんたちに、およそとっていただける時間とすると30分、40分程度ということのようなのですが、3月上旬にそのような事前学習会を開催させていただきまして、市の推進室と我々事務局のほうでお邪魔をして、学校側から先ほどもお話あったように、震災からオリンピックまでのそういった経緯というのも含めて、子供たちにお話をさせていただいて、あと当日こういう形で意見交換をしたいといったようなことを事前学習会ということで開催させていただくというようなことで、今予定させていただきました。前回学校側にお邪魔して、決まったといいますか、お話しさせていただいた一番大きな内容というのはこのような形になっております。

あとは、当日の細かい内容についてはこれからまた詰めましょうということですので、今後委員会の中でも決定していただければというふうに考えてございます。

事務局のほうから以上でございます。

(高木克尚委員長) 今ご報告させていただきましたように、やはり学校側も非常にこのせっかくの機会をいいものにしたいがゆえに、子供たちの現在の環境について多少不安もある。そんなことから、活発な意見交換会になるためにも、事前にある程度情報等を提供していただきたいと、こういう思いでございますので、事前に学校側と再度調整をさせていただき、事前説明をさせていただきたいと存じます。

以上の学校側との協議結果を踏まえまして、事前記入シート、若干変更をさせていただきました。当日の進行シナリオの案を作成いたしましたので、説明をいたします。

事務局よりお願いします。

(書記) それでは、事務局よりご説明させていただきたいと思えます。

お手元、ホチキスどめの平成31年3月23日意見交換会シナリオ案というもの、お手元に配付させていただいているかと思えますので、そちらをごらんいただければと思えます。こちらが今時点での当日のシナリオの大まかな内容の案という形にさせていただいてございます。簡単な流れということでご承知いただければと思えますが、事務局のほうからご説明させていただきたいと思えます。

まず、13時30分開会ですが、その前段、13時25分から事前説明ということで、当日の司会は副委員長にお願いしたいと考えてございますが、開会前に少し副委員長のほうから当日の注意事項等をお話しさせていただきまして、13時30分開会ということで、副委員長の司会で開会をしていただきたいというふうに考えてございます。

2ページに飛びまして、ページ途中ですが、13時33分、時間のところ、挨拶と趣旨説明、委員長という形にさせていただいてございますが、一番最初に委員長からご挨拶と当日の趣旨説明ということで、本日、当日の参加の御礼であったり、議会であったり特別委員会とはこういうことだよというご説明をいただいたり、復興オリンピック・パラリンピックの意義などについてということで、こちらにつきましてはまだこれから内容を詰めるような形になりますが、3月上旬に学校で行う事前説明会

の内容等を踏まえて、余りかぶらないように委員長のほうにご挨拶、ご説明をいただければというふうに考えてございます。

こちらの委員長のご挨拶と説明がおよそ10分強ということをご想定してございまして、13時45分、進行ということで副委員長のほうから、グループに分かれてワークショップを行っていただきたいと思っておりますということで、グループごとに別室に移動ということで、済みません。ご説明漏れましたが、ここまでの間は全体で、大きい教室で皆さん集まっていたいで進行、ここからはグループごとに、学校の普通の教室、何年何組といったような小さい教室と同じような大きさの教室に移動しまして、各グループごとにワークショップを行うという想定でございます。

13時50分からは意見交換会のスタートの予定とさせていただきます。こちら四角囲みの中、以降グループリーダー進行とさせていただきますが、共通事項ということで、参加者は事前に記入済みのシートを持参していただく予定となっております。こちら事前記入シートも、資料1ということで皆様のお手元に配付させていただいているかと思っております。こちらが前回配付させていただいたものから変更させていただいておりますが、最初の意見交換では、左の中ほどの欄、白抜きで記載させていただいておりますが、震災時に世界から受けた支援に対して、どう感謝を伝えられるのか考えようという欄を今回つくらせていただいておりますが、このところにつきまして学生さんに事前に記入していただくという想定でございます。こちら3月上旬に事前学習会も開催させていただいたので、そういったところで得た知識などから、このような内容で学生さんに事前に記入してきていただく。

学生さん全員からグループごとに意見を発表していただきまして、その中から出た意見を1つ選んで、その選んだ感謝をすべき方法をどうしたら実現可能になるかな、もしくはもっとよりよい案になるかなというところをグループで話し合ってくださいまして、その結果を一番左下、私たちができることというところの欄にまとめていただくというのがまず意見交換の第1部というようなことで想定してございます。

3ページ目のほうが進め方の注意点という形で記載させていただいておりますが、こちらはこのようにしたほうがワークショップがスムーズに進むのではないかなという注意点でございますが、まず星印の1番、1人目の指名についてはグループ内で最年少者、中学生がいれば中学生などを最優先に指名してはどうかということで、こちら学校の先生などからもちょっとご意見いただきましたが、やはり一番最初に年上の子が話をしてしまうと、年下の子はどうしてもそれに反対の意見を言いづらくなってしまいますので、ちょっとそこら辺は気をつけたほうがいいかなんていうようなお話がありましたので、ワークショップをやる場合にはなるべく年下の子から話をしてもらったほうが話がしやすいのかなというようにございます。

星印の2番、参加者から意見を聞いたら、復唱して、意見を肯定するなどワンクッション置いて、次の参加者の意見を聞くということで、なるべく皆さんに意見を出していただきやすいように、1人

の子が意見を言ったら、はい、次というふうにすぐ進んでしまうのではなくて、そうだねということで子供たちの意見をまず肯定して進めると。

星印の3番ですが、全員から意見を聞いたら簡単に総括するということで、そのうち大人とは違うおもしろい発想で、工夫すれば実現可能になるような意見を全体で話し合っ、最終的にグループでまとめるというような形でまとめを行っていければというふうに考えてございます。

こちらのワークシートの左側のところの部分が意見交換の第1部となりますが、ここのところの一応想定で、およそ2時20分程度までで行えれば。そして、2時20分から2時30分ぐらい、約10分ぐらいが休憩という形になります。こちらは、グループによって、進行度合いによって決定していただければと思いますが、一応今時点での想定時間というふうにさせていただいております。

2時30分からは意見交換の第2部のような形になりますが、こちらはシート、お配りさせていただいておりますシートの右側、2020年以降ということで、オリンピック・パラリンピック以降の福島に期待することを考えようというところを、こちら学生の皆さんにまず事前に記載していただくというようなことを想定してございます。

こちらの部分につきましてもグループごとに、参加者の学生さん一人一人に発表していただいて、またその中で出た意見の中からいいものをグループ全体で膨らませて、一番右下のところのところにまとめるというような大まかな内容で想定させていただいております。

シナリオでいきますと4ページになりますが、こちら下のほう、時間帯15時10分からは発表と想定をさせていただいておりますので、それまでには各グループでグループごとの意見をまとめて、ペーパー、当日はこのようなシートをもっと大きくしたものを各グループに準備させていただいて、その大きなペーパーに、発表用にまとめていただいて、各グループで発表していただくように想定してございますが、こちらの大きなペーパーを完成して、15時10分には発表が始められればというような時間帯の想定というふうになってございます。

そこまでがグループワークの内容でございますが、その後、各グループごとに発表していただきまして、シナリオ5ページの一番下のほうの段、本田校長先生講評というふうに記載させていただきますが、グループごとの発表が終わりましたら学校の、成蹊高校の校長先生から講評をいただきまして、その後、シナリオでいきますと6ページになりますが、高木委員長より最後ご挨拶をいただきまして、全てを終了というような形で、あと終了後に学生さんも含めて記念撮影を行って、解散というような流れを想定させていただいております。

ただ、こちらにつきましてはあくまでもシナリオ案ということで、学校のほうともまた協議をして、変更になる場合もございますが、今時点でのシナリオの案という形にさせていただいております。

事務局のほうから以上でございます。

(高木克尚委員長) 以上が現時点でのシート並びにシナリオ案でございます。

次回の委員会で、このシートとシナリオに沿って予行演習といたしますか、シミュレーションを行い

たいと思いますので、ぜひ10代に戻ったつもりで皆さんこのシートを埋めてきていただいて、シミュレーションしてみたいなど、こう思っておりますので、よろしくご理解とご協力をお願いします。

(村山国子委員) このシートだったのですけれども、左側の2011年から2020年のところの欄で、そもそも原発事故が起きなければ、福島でオリンピックは開催されなかったと思うのです。それで、一番、ふくしまの2011～2020の下の東日本大震災というところにやっぱり原発事故が入らなくてはだめなのではないかなと思いますけれども、いかがですか。この枠の中。3つの一番左の枠の。

(高木克尚委員長) 複合災害だということも理解してもらったほうがいいという意味ですよ。どうですか。

(村山国子委員) 何せオリンピックが福島で開催されるというのは、事故が起きて、もう福島は大丈夫なのだよというのをアピールするためなのですから、意図的には。

(高木克尚委員長) 会場が福島市ということであっても、福島県、地元の開催ということになりますので、福島市だけの事情ではなくて、県内全部、やっぱり複合災害だったのだということは理解してもらったほうがいいですね、子供たちに。

(村山国子委員) はい。

(高木克尚委員長) では、ちょっと工夫させてください。

(村山国子委員) お願いします。

(山岸 清委員) これグループリーダーは議員から出るのですか。わからないけれども、だから私のほうは、Aグループはこれ根本委員か。

(高木克尚委員長) まだそこは説明しておりませんので、後ほど。

ほかで、シート関連で何かご意見、ご質問ありますか。

(小松良行委員) シナリオは。いいの、聞いて。

(高木克尚委員長) どうぞ。

(小松良行委員) 議員の紹介が、これ各部屋に散らかってから、私が担当する誰々ですというのだけれども、最初に紹介、自己紹介やると長くなるから、誰かに言ってもらって、最初にあったほうがいいですよ。

(高木克尚委員長) では、参加議員の紹介も、ちょっと場所をどこにするかあれですけれども、事前に入れたいと思いますので。

(沢井和宏委員) 2ページのあれなのですけれども、震災時に世界から受けた支援に対して、どう感謝を伝えられるのか考えようということで参加者からいろいろ意見をもらって、1つ決めるのですけれども、その下の、どう感謝を伝えられるかというのと、選んだ感謝の方法をどうすれば実現可能になるかというのがちょっと何となく、同じようなことなのではないかなという気はしたのですけれども、とにかくグループで選んだやつを例えばグループで、ではみんなから意見が出たのだけれども、それを1つ、これをどう伝えられるかというのをここに書いて、あとそれに対してどういう手だてが

あるのかというのをグループで話し合っ、ここにグループのシートとしてまとめればよいということですね。

(高木克尚委員長) そうです。

(沢井和宏委員) 同じようなことだななんて。ただ、そこは、あとは話し合いで、より具体化、私たちができることというのは、より具体化していけばよいということですよ、多分。

(高木克尚委員長) ①は全員、参加者全員の考え方をお聞きするものであって、それをどうみんなでチョイスしていくかですね。

いいですか。

【「はい」と呼ぶ者あり】

(高木克尚委員長) 次に、当日の班分けについてであります。正副委員長手元で決定をさせていただきました。配付いたしました班分けのとおりをお願いしたいと思いますが、ここで各班で司会役のリーダーと主に記録を行うサブリーダーを決定していただきたいと存じます。

A班は山岸委員、根本委員ですが。

(山岸 清委員) リーダーが根本委員で、私がサブリーダーで記録係です。

(根本雅昭委員) わかりました。

(高木克尚委員長) B班、渡辺委員、沢井委員でございますが。

(渡辺敏彦委員) これは沢井委員でしょう。当然でしょう、これは。

(高木克尚委員長) C班、小野委員、鈴木委員。

(小野京子委員) 鈴木委員さん、お願いします。

(高木克尚委員長) D班、尾形副委員長と二階堂委員。

(尾形 武委員) 二階堂委員、お願いします。

(高木克尚委員長) E班、村山委員、小松委員。

(村山国子委員) 上のとおりで。

(高木克尚委員長) では、小松委員に決定いたします。

(小松良行委員) はい、わかりました。そういう流れでしたので。

(高木克尚委員長) また、皆様にはお願いですが、意見交換会当日、委員以外に傍聴を希望される議員の方がいらっしゃる場合、会場である高校の警備の都合上、事前にご報告をいただきたいと思ひます。各会派でその旨をお伝えいただいて、傍聴希望の議員の方がいらっしゃれば、次回の委員会までにお知らせくださいますようお願いいたします。

また、本日お配りしました東京2020大会ガイドブック、冊子、以前にもお配りをしておりましたけれども、昨年10月に発行された最新版となっておりますので、こちらのガイドブックは参加者の中高生にもお配りをする予定となっておりますので、今後の委員会、当日の意見交換会の際にも忘れずにお持ちください。

ここまで何かご意見あればご発言。

【「なし」と呼ぶ者あり】

(高木克尚委員長) では、その他に移ります。

その他では、次回委員会の日程をお諮りしたいと思います。正副委員長といたしましては、2月21日1時半を予定したいのですが、大丈夫ですか。2月21日木曜日1時半を予定しております。

それでは、そのような日程でよろしくお願いを申し上げます。

なお、次回については、先ほど申し上げましたように、最終的な進行の確認として、皆さん委員でワークショップのシミュレーションを行いたいと思います。先ほど説明いたしました学校側の意向としても、今回は学生に震災からオリンピック開催までの経過、つまりは震災後に受けた支援への感謝をどう発信するかということに重きを置いて、まずは中高生にそのことを伝え、その上で中高生の意見を聞き、中高生の目線でどう感謝を発信できるかということをもとめることを最大のテーマにしたいと思います。次回のシミュレーションでもそのような内容を念頭に行いたいと思いますので、委員の皆様も協力をよろしくお願いいたします。

それでは、以上で東京2020オリンピック・パラリンピック調査特別委員会を終了いたします。ご苦勞さまでした。

午後4時32分 散 会

東京2020オリンピック・パラリンピック調査特別委員長

高木 克尚